

平成 30 年 2 月 5 日

「第 5 回協働型災害訓練 in 杉戸」開催報告

杉戸町富岡町川内村地域間共助推進協議会(主幹:NPO法人すぎとSOHOクラブ、同法人NPO埼玉ネット)は、市民キャビネット災害支援部会、同スマートICT部会、立正大学地球環境科学部との共催で、平成 30 年 2 月 2 日(金)~3 日(土)、杉戸町において、「第 5 回協働型災害訓練 in 杉戸」を開催しました。

東日本大震災の経験と教訓を生かすべく、平成 25 年度国土交通省広域的な地域間共助推進事業としてスタートした「協働型災害訓練」。大規模災害時には一人でも多くの命を助けるために、効率と統一された災害対応が必要になります。

この訓練では、米国で誕生した災害版 ISO と呼ばれる ICS (Incident (現場) Command (指揮) System (システム)) を用い、将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくることを目指しています。

今回は 5 回目の開催として、これまでも行われてきた ICS を活用した図上訓練のほか、今だから語れる参加自治体による避難所のリアル、実践的個別ワークの避難所運営体験、災害備蓄品を実際に試食するランチワークなど行われました。

杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

<開催概要>

イベント名:「第 5 回協働型災害訓練 in 杉戸~福祉避難所開設訓練・ICS 図上訓練~」

主催 杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

主管 すぎとSOHOクラブ、NPO埼玉ネット、地域防災勉強会 SUGITO

共催 市民キャビネット災害支援部会・スマート ICT 部会、立正大学地球環境科学部

協力 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、総務省関東総合通信局、

埼玉県共助社会づくり課、東埼玉総合病院、

全日本救助犬団体協議会、ユニバーサル志縁センター、

杉戸町社会福祉協議会、フードバンク埼玉、

日本アマチュア無線連盟埼玉支部、SAFE、ソーシャルインパクトワークス、他

日時:平成 30 年 2 月 2 日(金) 9 時 00 分~17 時 15 分

平成 30 年 2 月 3 日(土) 9 時 00 分~18 時 00 分

会場:彩の国いきいきセンター・すぎとピア

(345-0024 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字堤根 4742-1 電話 0480-33-8192)

<開会式>

前日は首都圏が23年ぶりの積雪に見舞われ、交通機関をはじめ混乱が生じる事態となっていました。しかし、このような事態であっても150名もの参加者があり、会場は満員となりました。さすが、非常時あっても参集できる防災のプロの方々。この訓練への参加も訓練の一貫、降雪積雪は関係なく、満員御礼でスタートすることができました。

開会式は、古谷杉戸町長からの挨拶、菅野富岡町郡山支所長、猪狩川内村副村長をはじめとする共催の紹介がありました。古谷町長からは、本訓練は本年度で5回目、杉戸町が東日本大震災で避難住民の受け入れや物資支援により交流を続けてきた友好都市の福島県富岡町、福島県川内村、NPO法人すぎとSOHOクラブ等の地域間共助推進協議会により開催されるものであること、本日開催にいたるまでの関係者への御礼を述べられました。来賓として、埼玉県議会議員権守幸男氏、前衆議院議員鈴木義弘氏から挨拶がありました。協力参加の総務省関東総合通信局、埼玉県危機防災管理課からも挨拶がありました。今回は、県危機防災管理課に加え、共助社会づくり課、県内自治体議員の参加もあり、年々高まるこの訓練に対する関心の高さが伺えました。

祝電は以下の方々からいただきました。上田清司埼玉県知事、土屋品子衆議院議員、村井英樹衆議院議員、古川俊治参議院議員、岡重夫埼玉県議会議員。ありがとうございました。



<チェックインタイム>避難所ワークショップ1

開会式に続いては、チェックインタイム。

避難所ワークショップ1として、SL 災害ボランティアネットワーク・埼玉による、避難所運営ゲーム～HUG～。HUGの考え方を基にした、動画を使ったより実践的な条件判断のワークタイムを行いました。



災害リテラシーは日々変化しています。常にアップデートを行い、最新のリテラシーセミナーを行えるのも協働型災害訓練の強みです。

<シェアリングタイム>東日本大震災ドキュメント

今年も福島県から仲間が駆けつけてくれました。東日本大地震ドキュメント～避難所のリアル・あの時私たちが体験したこと～。福島県双葉郡川内村の猪狩貢副村長と富岡町の菅野郡山支所長に、あの時避難所で何が起こったのか、現場であった本当の話を各職員から赤裸々に語って頂きました。

川内村の猪狩貢副村長



富岡町の菅野郡山支所長



福島県双葉郡富岡町から川内村へ、そして川内村からビックパレットふくしまへ。鮮明に7年前の記憶が蘇りました。そしてまだそれは終わっていないことも改めて心に刻む時間となりました。

＜個別実践ワーク＞避難所ワークショップ4

1日目のメインは、個別実践ワーク。

避難所ワークショップ4では会場全体を使った個別実践ワーキングタイムで避難所開設訓練を行いました。

A. 福祉避難所開設

杉戸町社会福祉協議会、福祉団体あじさい会、杉戸町住民参加推進課防災担当による、災害弱者体験と車椅子移動、災害トイレやベッドの組み立てを体験して頂きました。



B. 訪日外国人多言語音声翻訳体験

総務省関東総合通信局による、情報通信研究機構（NICT）が開発&リリースしている多言語対応アプリ VoiceTra を活用した外国人対応を想定した多言語音声翻訳体験を栃木県シニアセンターさんにご協力いただき実施しました。



C. トリアージ体験

災害時には人的インフラも不足することになり、医療対応にも遅延が発生することが想定されるため、地域医療にも尽力している東埼玉総合病院の看護師さんらによるトリアージ体験。



発災時、避難所に直ちに医療インフラが届くことはありません。
住民にも出来ることがあります。それを学ぶ大切な機会になりました。

D 1. ドローン運用体験

昨年、杉戸町と災害時のドローンによる情報収集協定を結んだ民間企業、株式会社 kanshas.jp（カンシャス）。ドローン実機の展示と飛行のデモンストレーション。ヘッドマウントディスプレイで上空からの眺めも体験。



D 2. 広域無線運用体験

日本アマチュア無線連盟埼玉支部には、発災時に無線機器を貸し出す制度があります。今日は機器の紹介と、体験を行いました。



D3. 避難所セラピードック体験

被災地に一番に駆けつけ救助犬活動を行う日本レスキュー協会による、セラピードック体験。ワンちゃんたちは復興期もこうして被災者を支えているのですね。



2日目

<地域防災勉強会> I C S 基礎講座/応用講座

2日目は地域防災勉強会（主管：地域防災勉強会 SUGITO）からスタート。
地域防災勉強会では地域防災勉強会 SUGITO が主管となり、I C S 講座を開きました。

これまで協働型災害訓練の I C S 図上訓練を監修している立正大学地球環境科学部後藤真太郎教授による基礎講座。防災科学技術研究所と共同事業を行っているソーシャルインパクトワークス清原光浩代表による C O P（common operational picture、共通状況図）講座。東日本大震災では岩手県災害対策本部で実際に I C S を活用して状況把握と対応に努めた防衛医科大学校秋富慎司准教授による応用講座を行いました。



＜体験型ランチタイム＞避難所ワークショップ 5

2日目の昼食は、体験型ランチタイム。

フードバンク埼玉の協力により、災害備蓄品を実際に使っての昼食体験を行いました。フードバンク埼玉の永田事務局長から、フードバンクの活動説明や食品提供の流れのプレゼンテーションを行って頂きました。



続いては、防災備蓄品の試食。この日提供されたのは、防災備蓄品3DAYセット。缶詰パンやアルファ米を実際に試食してもらいました。



さらに、福島県双葉郡浪江町から避難されている皆さんが、本場の「なみえ焼きそば」を作ってくださいました。皆さん、ありがとうございました。

<協働型災害訓練> ICS 図上訓練

最後はこの訓練のメインコンテンツ、ICS 図上訓練。

災害版 ISO とも言われる ICS を活かし、限られた情報だけを頼りに出来ることを創造していく訓練です。初めての人は情報の無さと、何をすべきか分からず戸惑うしかありません。でも一度災害が起これば同じことが起こるのです。情報や道具や組織が揃っている？そんなことはあり得ない。毎年参加する度に創造できるようになる、それが協働型災害訓練の真骨頂です。



<アウトカム 1> Common Operational Picture

NPO を中心とした災害対策組織には、IT を活用したチームがあります
ドローンを飛ばして現場の写真を撮り、それを地図上に正確に重ねていきます
つまり、今の現場の状況が誰にでも理解できる情報=COP (Common Operational Picture)
を作成することができます



今回、地図チームが作成した地図の URL はこちらになります
ぜひご覧ください

<http://sugito.code4saitama.org/>

<アウトカム2> ドローン3Dデータ

計画情報班は今回、ドローンを飛ばして会場周辺の撮影を行いました。

そしてそれらの写真を繋げて3Dの立体写真を作成しました。ほんの少しの時間があればこのような高度な処理を行うことも可能です。立体にすることで現場の高低差が分かり、家屋倒壊の様子や斜面崩壊など人が近づけない場所の情報も手に取るように分かるのです。

以下のURLに3Dデータをアップしましたので是非ご覧ください。

スマホでも操作することが可能です。

<https://skfb.ly/6wsHB>



<感謝>



—<予告>-----

第6回 協働型災害訓練 in 杉戸

～首都圏災害に備えよう。つながることは備えること（仮）～

開催 平成31年2月1日（金）～2日（土）

時間 9：00～17：00（予定）※会場宿泊あり

場所 彩の国いきいきセンターすぎとピア（埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根 4742-1）

内容 検討中（ICS集中講座：修了証発行予定）

主催 杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

共催 市民キャビネット災害支援部会・スマートICT部会、
立正大学地球環境科学部

協力 関東ICT推進NPO連絡協議会、総務省関東総合通信局、栃木県シニアセンター、
埼玉県危機管理課、共助社会づくり課、東埼玉総合病院、
全日本救助犬団体協議会、ユニバーサル志縁センター、
フードバンク埼玉、ソーシャルインパクトワークス、ホワイトボックス、他

対象 首都圏を囲む後方支援自治体の職員や関係者、団体など
地域防災に関わっているまたは興味のある人や団体など
防災版ISOであるICSを学び活かしたい人や団体など

定員 300名

費用 未定

最新情報はWEBまたはFacebookで！

★協働型災害訓練 in 杉戸オフィシャルサイト <https://www.icsjapan.org>